

菊の会だより

“心を踊る”
■
菊の会は古典舞踊の
研鑽に励み
明日の新しい舞台芸術の創造に
情熱を燃やしています

[発行]
舞踊集団 菊の会
代表 畑道代
〒161 東京都新宿区西落合2-21-23
電話 03-5983-6001 (代)



舞踊劇「カッチャいかねかこの道を」第十巻(二人加護)

台風の多かった夏も過ぎいよいよ爽やかな秋を迎え、皆様には、御機嫌麗しくお越しの事と存じます。
今年、菊の会が始まって以来の忙しい月日の連続でしたが、皆様のお蔭をもちまして無事故で一つ一つの催しを盛会に終える事が出来ました。

創立二十五周年を 新たな第一歩に

舞踊集団 菊の会
代表 畑道代



舞踊劇「カッチャいかねかこの道を」第一巻発端

ネパール記念公演、八瀬新築内見会、東京、京都のアトリエ公演、二十五周年記念公演、TV出演等々、充実した仕事となりました。誠に有難うございました。
今年七月に、二十五周年記念公演の一環として舞踊劇「カッチャいかねかこの道を」(芸術祭優秀賞受賞作品)を公演し、秋の公演は新作で企画しておりますが、再度「カッチャいかねかこの道を」を行って欲しいとの声が多く、それにお応えして再演の運びとなりました。
どうぞご了承下さいませ。
そして十月からの様々な催しにも何卒御支援賜ります様、よろしくお願ひ申し上げます。

心かよう菊の会の集いと感動の舞台!

千葉市長尾会館にて 共感の輪を広げた「菊の会の集い」

年齢や立場の違いを越え、日本の心を楽しみ踊り、仲良く集い合っていることを、ぜひ紹介したいとの千葉メンバーの熱い思いが、八月三日第一回「菊の会の集い」として実現した。
この日のために館主が様々な準備をして下さり、青畳の香りも爽やかな長尾会館に大勢の方々が集まって下さった。心なごむ爽やかな司会に始まり、菊の会二十五周年の歩みをスライドを通して語る畑代表の話に、舞踊の世界がぐっと身近に感じられた。



また、目の前で見える公演メンバー三名の数の踊り、次いで地元千葉メンバー七名の「さくらさくら」を踊る姿に、御来場の皆様の気持ちが高ぶれ、木曾節、郡上川崎、八木節の輪踊りには全員の方が加わり、暑さも時間もしばし忘れて、会場いっぱいのお喜びの渦となった。
次の機会にもまた是非との声をたくさん頂き、参加者一同喜びと感謝のうちに無事会を終了させる事が出来た。

東京新聞主催'97全国舞踊コンクール入賞

佐竹永光さん原聰さん邦舞第一位、 宮沢りかささん第三位に輝く!!

東京新聞主催の第五十四回全国舞踊コンクールに、佐竹さん、原さんが「石橋」で、宮沢さんは「鳥の千歳」で初参加。
三月十八日の予選を無事通過し、四月十四日の本選で、佐竹さん、原さんが見事邦舞第一位と文部大臣奨励賞、東京都知事賞、みやこ賞を受賞し、また、東京新聞、日本舞踊協会より表彰を受け、宮沢さんは邦舞第三位に輝いた。
そして、九月十五日には「97全国舞踊コンクール入賞アンコール公演」が開催され、入賞者が出演した。

第二十三回教室発表会 見事な成果を納める!

九月六日(土)午後一時半より、江戸川区総合文化センターに於いて、第二十三回教室発表会が盛大に開催された。
これには江戸川区長中里喜一氏が激務の中を駆けつけて下さり、畑代表からの花束贈呈を受けた。
そして華やかに開幕した。
今回初参加の平野敏子氏の司会で進行も好調。
九月十三日(火)国立大劇場に於いて、各流派の家元や代表の方々が出演される中、今回初めて菊の会公演メンバーの代表十六名(男性舞踊手8名、女性舞踊手8名)が、「流れ」の作品で出演した。
九十七番二七三人の出演者、述べ三百九十人の見事な演技に、六時間半もあつという間に経過した。それぞれの人が、日頃の成果を遺憾なく発揮し、一演目ごとに大きな拍手がおこられた。
今年の教室発表会に、菊の会創立二十五周年を祝い、新しい「菊の会ONDO」が友の会の菊地宏氏によって、菊の会に贈呈された。

東京新聞主催 第三十三回推薦名流舞踊大会に出演!

九月二十三日(火)国立大劇場に於いて、各流派の家元や代表の方々が出演される中、今回初めて菊の会公演メンバーの代表十六名(男性舞踊手8名、女性舞踊手8名)が、「流れ」の作品で出演した。
この作品は、かつて三隅治雄先生の作品「にほん大通り」でラストの山場に踊られたもので、「芸能の発生」をテーマに芸能の流れともいえる作品に仕上げられている。

秋の菊の会公演 「カッチャいかねかこの道を」を再演!!

創立二十五周年を記念しての自主公演は、再演を熱望する声にこたえて、文化庁主催芸術祭優秀賞受賞作品「カッチャいかねかこの道を」の舞踊劇を上演します。
カッチャとは、東北地方の母の呼び名で、日本の激動期に捨てた我が子として見事に育て上げた日本を代表する母の姿を畑代表が演じ、鮮やかな色彩とダイナミックな踊りがありなす涙と笑いの美しい舞踊劇です。
どうぞ、御期待ください。

舞踊集団「菊の会」に期待する

舞踊評論家 桜井勤



したものが、今日みてもいささかも古くならないところに日本のきびしい現実があり、畑さんを中心にした菊の会の精進があった。

畑道代さんの舞踊集団「菊の会」は発足して、すでに25年の歳月がたった。その諸外国派遣を含めた舞踊活動については、広く知られている。
97年東京新聞全国舞踊コンクールでは、邦舞第一部で「石橋」(原聰、佐竹永光)第一位、「鳥の千歳」(宮沢りかさ)第三位になり、古典舞踊の勉強にすぐれた門下を出されていることを知った。7月公演「カッチャいかねかこの道を」をみた。76年の文化庁芸術祭優秀賞を受けた作品で、三隅治雄氏のすぐれた脚本・演出による舞踊劇は、先駆を歩むものであった。戦後の農地解放で没落した家を支える女主人公山田佐枝(畑道代主演)の姿は、涙なくしてはみられない作品だった。22年前に初演

友の会会員募集

伝統文化を大切に、明日の新しい舞台芸術の創造に情熱を燃やす菊の会の幅広い活動を支援するのが友の会です。
舞踊家の育成、作品創り、そして諸外国との文化交流を目指す菊の会を育てるために皆さんの御支援をお願いします。
一般会員、年一口一万円、法人会員、年一口五万円、詳しくは友の会事務局へ。
TEL(03)59836001

10月・11月のお知らせ

◆会津若松公演
第36回会津若松市民文化祭参加行事
「菊の会日本の心を踊る」
10月9日(木) 午後3時開演
10月11日(土) 午後6時開演
10月12日(日) 午後6時開演
◆八瀬研修所公演
「菊の会日本の心を踊る」
10月31日(金)・11月1日(土)
午後2時・6時半開演
11月2日(日) 午後2時
場所/会津若松市民文化福祉センター
入場料/前売券4,500円
当日券4,800円
◆八瀬研修所公演
「菊の会日本の心を踊る」
10月31日(金)・11月1日(土)
午後2時・6時半開演
11月2日(日) 午後2時
場所/菊の会八瀬研修所(京都)
入場料/3,000円



新世紀へ新しい舞台芸術の発信地 京都八瀬研修所完成！



風情豊かな京都でアトリエ公演開催

民謡風土記「おけさ海を行く」に酔う

芸能日本社社幹 乾 一郎



比叡山の麓、高野川に沿った菊の会八瀬研修所での自主公演「おけさ海を行く」を観る。(平9.8.8 7p.m.)

出、振付が快い。人物のおけさ・文吉姉弟の哀話も苦難も、舞踊劇の本質を辨えた如く、挑発的でなく、刺激を抑えた演出、演技、而も団員それぞれの適確な力演で、全体に暗(陰)にならず、夢物語的ムードで包まれ、尚も感動を呼ぶものであった。第二部の「佐渡おけさ」は選曲もよく、佐渡おけさに始まり、土着の民謡の振りが

生かされ、矢継早に八曲の踊りが流された。おけさ踊りに次いで、編笠に脇差し、黒紋付元禄袖の男衆六人の相川音頭が珍らしい情趣を見せ、会主(畑師)が洗髪の浴衣姿で潮来甚句を奏しませ一服の清涼剤であった。ラストの傘おどりの勇壮華麗が更に菊の会音頭で豪華に盛り上げ圧倒されんばかりのフィナーレだった。会主畑道代師が如何にこの公演に打込み、団員挙げて会主中心に努力を尽くしたかが覗かれた。お客は払った料金以上の満足感に酔わされたに違いない。



磯節
▼「おけさ海を行く」佐渡おけさ



祝 創立二十五周年

(社) 東洋音楽学会関西支部長 久保田 敏子



菊の会創立二十五周年、誠にめでとうございます。またこの機に、大変素晴らしい研修所を京都の八瀬に完成されましたこと、私も関西に居ります者にとりまして、この上なく嬉しいことでございます。畑道代様は京都のご出身でいらっしやいますからそのお喜

びもひとしおと拝察申しあげます。私は邦楽の研究や評論をさせて頂いておりますが、最近舞踊劇という総合美に魅せられています。とくに菊の会の公演は、その台本、その音楽に至るまで吟味されていますので、演出、演技、舞踊すべてが相乗効果で「花」を開き、感動を呼びます。

頂きました。この八瀬研修所は交通の便もよく、照明も音響もよく工夫されています。それに舞台が直ぐ目の前にありますので、大がかりな劇場公演とはひと味違った手造りの暖かさがありません。この様に舞台を身近かに拝見させて頂けますことは、ずいぶん贅沢な鑑賞法だと思います。それだけに演じられる側にとりましては、ある面では気の張る舞台になるのかも知れません。

これからは関西でも菊の会の活躍を拝見できる機会が増えますこと、とても嬉しく思います。斯道の発展のためにも、畑様はじめ皆々様の一層のご活躍を心から祈念いたしまして、二十五周年に大きな拍手をお送りします。

躍動の舞で綴った菊の会ディナーショー

八月二日(土) ホリデイ・イン東武成田にて

限りなく碧い夏空に次々と消えていく機影を追いながら、また夜は満天の星をちりばめたような明りの渦の成田空港に目を奪われながら、シェフ心づくし

のフランス料理に舌鼓をうち、明るく華やいだディナーのあとは、いよいよ第二回ホリデイ・イン東武成田舞踊ショーの開幕です。華麗な寿菊三番度でお祝

いを、そして格調高い連獅子の赤白の毛ぶりに圧倒、夏にふさわしい海の踊りや鯨太鼓、御存知黒田節、そして畑代表の涼やかで楽しくリズムミカルな磯節、潮来甚句、田助ハイヤに拍手は鳴り止まず、続いての第二部の踊りくらべで次々とスピーディーに展開される踊りに客席は盛り上がり、極め付け畑代表の風の盆恋唄には、しばし声もなく深い感動に包まれました。雄大な北海道をバックのイヨマンテの夜は特に圧巻でした。そしてフィナーレは場内一体となったの鹿見島おはら、牛深ハイヤの軽快なリズムに心地良い夏の一日の幕は見事におろされました。



洛北八瀬新拠点での八月公演に感動

よみうり京都文化センター 支配人 西田 文人



公演の行われた研修所の玄関

八瀬は、天武天皇(大海人皇子)が、壬申の乱(六七二)の折、この地で背中に矢傷を負ったことが地名の起り。また後醍醐天皇が比叡山行幸の際の功勞で、以来禁裏御用をつとめる八瀬童子の里でもある。地域内には、大海人皇子が矢傷を治療したと伝えられる窯風呂があり、土饅頭の空洞で青い松葉を焚き、内部が十分熱せられたときに火を引き、水をまき、塩水を含ませた筵を敷いて、その上に横になって温まるもので、中世以来湯治に使われた。正徳五年(一七一五)には十六軒あったのが、いまでは一軒が昔のままに復元保



観客のなかに舞妓さんの姿も

群舞などに感動していた。観客のひとりには、「素晴らしい踊りが東京に行かずに見られるのは嬉しい。是非定期的に公演してほしい」と話していた。



和風の美しさを見せる客間

創立二十五周年を記念して「菊の会ONDO」誕生!!

日頃から菊の会に何かとご支援してくださっている菊地宏氏が作詞をし、レコーディングの制作まで担当していただき、このほど「菊の会ONDO」が誕生しました。菊地氏は本業の不動産業の合間に、作詞活動を続けて来た方で、

作曲家遠藤実氏等と同時期に作詞家松村又一氏に師事し、日本音楽著作権組合に所属しています。作曲を担当して下さったのは、日本作曲家協会会員の稲沢祐介氏です。稲沢氏はピアノを岡本敦郎夫妻に師事し、昭和四十二年「鳴門小唄」で東芝レコードからデビューし、藤島桓夫、都はるみ、冠二郎等の楽曲を多く手がけています。

また、編曲をして下さったのは日本作曲家協会理事の只野通泰氏です。只野氏が作曲、編曲したものは多数ありますが、「星影のワルツ」「大東京音頭」等が代表作です。さる九月六日に、江戸川区総合文化センターで行われた教室発表会でこの新曲が発表されました。その席上、ひまわりグループの代表から三人の先生方に花束が贈呈され、更に畑代表からは記念品と共に感謝状が贈られました。

菊の会としてはこの時期に新曲を頂き、皆さんが大変喜んで踊っている姿に心から感謝しています。

春は不……(サテ 春は桜も山も若葉霞に 鳥の声 フレッシュヤントネ) ソレ ソレ ソレ 菊の会
夏は不……(サテ ドシと夜空に咲く火花 浴衣姿が 舞い踊る フレッシュヤントネ) ソレ ソレ ソレ 菊の会
人の情けの 織り成す夢を テ、ヨイサ ア、ヨイサ 秘めて託した 心の踊り 秘めて託した 心の踊り (ハイ ハイ) ソレ ソレ ソレ 菊の会
秋は不……(サテ 実る稲穂の黄金波 祭り太鼓が 風に乗る フレッシュヤントネ) ソレ ソレ ソレ 菊の会
巡る季節に 想いを寄せて テ、ヨイサ ア、ヨイサ 月に紅葉に 流れる水に 月に紅葉に 流れる水に (ハイ ハイ) ソレ ソレ ソレ 菊の会
冬は不……(サテ 雪が迷い散る静けさに 響く琴の音 舞い扇 フレッシュヤントネ) ※やがて 遥かあの山 あの海越えて テ、ヨイサ ア、ヨイサ 伝えましょうよ 日本の良さを 伝えましょうよ 日本の良さを (ハイ ハイ) (※印以後繰り返し) ソレ ソレ ソレ 菊の会